

近年、観光資源としての森林が注目されているが、その歴史は広く知られていない。そこで、林業の歴史を記録した「川浦山御用木御伐出絵図」を林業的な視点から、再評価し「林業遺産」に登録申請した。この絵図には、当時の立木の伐採や運搬方法などが描かれ、江戸時代の群馬県での林業活動を伝える貴重な財産であることを再認識できたが、地域資源としての活用方法が、今後の課題である。

森林や木材利用の歴史を再発見 —江戸時代に描かれた立木の伐採・搬出の絵図について（中間報告）—

県本部／組織名・木材利用研究会・農林大 町田初男 林業試験場 當間博之
利根沼田環境森林事務所 高橋 史彦 助言者 小島 正

1. はじめに

群馬県では、「富岡製糸場と絹産業遺産群」が、2014年に世界遺産に登録され、その歴史的価値が評価されています。林業においては、日本森林学会が、日本各地の林業発展の歴史を、将来にわたって記憶・記録していくため、2013年度から「林業遺産」選定事業を開始しました。

本県では、明治初期から御荷鉾林業（藤岡市）が行われているが、それ以前の江戸時代に、高崎市の倉渚地域においてケヤキを伐採して江戸城に運んだ記録が残されています。その記録は「川浦山御用木御伐出絵図」として、高崎市指定重要文化財に指定（1990年）されているが、広く知られていません。

そこで、今回、「川浦山御用木御伐出絵図」の歴史的価値を林業の視点で調査し、「林業遺産」に登録申請したので、その概要を報告します。

2. 川浦山御用木御伐出絵図について

(1) 文化財としての価値について

「川浦山御用木御伐出絵図（かわうらやまごようぼくおきりだしえず）」は、「天保5（1834）年、幕府は川浦山御林から大量のけやきを伐り出しました。搬出にあたっては烏川の水流を巧みに利用して流し、現在の新町に送り、そこから筏に組んで江戸まで運びました。」と高崎市HPで紹介されています。その絵図には、立木の伐採から搬出までの作業過程が描かれ、幅30センチメートル、長さ10メートルの絵巻物です。それを3分割して図-1に示します。



図-1 川浦山御用木御伐出絵図

高崎市では2005年にコロタイプ印刷により、図-2に示すような複製品を作成し、博物館等で展示し、当時の林業の様子を伝えています。



図-2 高崎市で所蔵している「川浦山御用木御伐出絵図」の複製品

(2) 川浦山御用木御伐出絵図に描かれた内容について

この絵図(図-1)には、右側から、詞書(ことばがき)、御会所、ケヤキの伐採、造材、搬出の過程が描かれています。

1) 詞書について

「川浦山御用木御伐出絵図」(図-1)の詞書を拡大し、図-3に示す。このなかにある「碓氷神社」は、現在、安中市に存在しています。

2) 御会所について

絵図(図-1)に描かれている御会所の跡地(図-4)は、「幕府御用材搬出御会所跡(ばくふ ごようざいはんしゅつ ごかいしょあと)」として、高崎市指定史跡に指定(1982年)されています。高崎市のHPによれば、「御会所は陣屋とも呼ばれ、仕事を監督する所でした。この会所には役人が寝起きし、大勢の柚人や日雇い人夫が棚外に小屋がけをして仕事にあたっていました。」との説明があります。

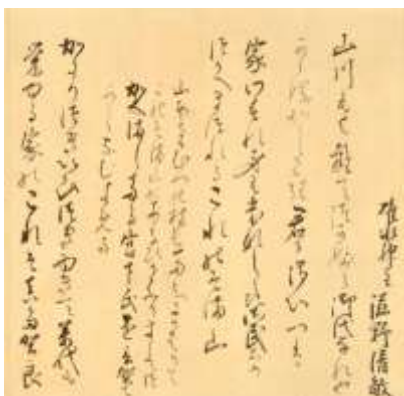


図-3 詞書

(引用：川浦山御用木御伐出絵図)



図-4 幕府御用材搬出御会所跡

引用：高崎市HP



図-5 台伐法(伐採方法)

(引用：川浦山御用木御伐出絵図)

3) 立木の伐採法(台伐法・焼伐法)について

図-5に描かれている木の伐採方法は、現在のチェーンソーでの伐採方法とは異なり台伐法です。台伐法とは、木の幹に3方向から斧を入れ、3箇所「つる」(蝶番の役割をする部分)を残したうえで、最後にそのうちの1のつるを伐り、伐採する方法です。三ツ紐伐り(みつひもぎり)とも言われ、岐阜県立森林文化アカデミーのHPで紹介している事例を図-6に示す。樹木の中心部が取り除かれて、3箇所「つる」があり、倒れる時は2本のつるが蝶番になって倒れる状況が理解できると思われます。



図-6 台伐法(三ツ紐伐り)の伐倒手順(引用：岐阜県立森林文化アカデミーHP)

次に、川浦山御用木御伐出絵図に描かれている焼伐法（図－7）とは、官材画譜⁽¹⁾（図－8）で、株焼之図として描かれている方法で、「槻（ケヤキ）を伐時は必彼の鼎（カナエ）の如して其の中にて火を焚くなり。しかすれば生木の水分と大気とねばり合いて割る事なしとなり、他木は然するに及ばず」（注 鼎（かなえ）：3本の足のある器物の一種）と解説している。

筆者の解釈は次の通り。ケヤキを伐る時は、木の幹に3方向から斧を入れ、3本の支柱を残し台伐法（図－6の中央）の空間で火をたき、加熱により支柱部分の強度（粘着力）を低下させ木が割れるのを防ぐ。（飛騨地域には加熱で木材が軟化することを利用した曲げ木という加工技術がある）この方法はケヤキのみで、他の木では不要である。

川浦山御用木御伐出絵図には、「台伐法」と「焼伐法」が描かれていますが、順番として、「台伐法」で鼎（カナエ）の状態（図－6の中の写真）にして、次の段階として、火を焚いている状態（焼伐法）を描いたとも考えられます。造材や搬出について説明は、紙面の都合により割愛します。



図－7 焼伐法

（引用：川浦山御用木御伐出絵図）



図－8 株焼之図（引用：官材画譜⁽¹⁾）

3. 川浦山御用木御伐出絵図に描かれた場所について

川浦山御用木御伐出絵図に、御会所が描かれているため、ケヤキが伐採されたのは、その周辺と推察されます。次に、倉淵村林業史⁽²⁾によれば、「川浦山御用木御伐出絵図」のなかの滝は、相間川上流の「十丈の滝」（図－9）と推測している。その根拠として、「川浦山御用材秘史」⁽³⁾に高芝の奥の滝（せん）との記述があります。

また、川浦山御材木御伐出御用中日記⁽⁵⁾によれば、「白沢、赤川、袈裟丸」への（伐採した木材を貯木してある場所の）見回り関する記述があるため、図－9に示した河川（破線部分）を利用して、ケヤキ等を搬出したと推測されます。



図－9 ケヤキを搬出した河川（背景画像は国土地理院のHPからダウンロード）

4. 林業遺産への登録申請について

(1) 林業遺産とは

日本森林学会林業遺産選定委員会事務局のHPによれば、日本森林学会100周年を契機として、日本各地の林業発展の歴史を、記憶・記録していくための試みとして、「林業遺産」選定事業を、日本森林学会が2013年度に開始しました。日本森林学会のHPによれば、2019年度までに、41件が登録されています。林業遺産に登録する目的は、広報普及活動や地域振興に向け、登録対象の活用を後押しすることです。

(2) 登録申請について

現在、群馬県内には林業遺産への登録箇所がありません。今回、絵図の所有者、及び指定重要文化財に指定している高崎市から承諾を得て、2020年11月に「川浦山御用木御伐出絵図」の登録を申請しました。2021年1月8日に、林業遺産選定委員会事務局から、次の4点の補正・追加資料の請求について連絡がありました。

- 1) 資料としての価値は林業遺産委員会として認められるが、推薦書に価値が明示されていない
- 2) 資料原本の保存状況や保存経緯、可能であればオリジナリティ（絵巻物が本物であるかの鑑定結果）の証明
- 3) 林業遺産を将来にわたって記憶・記録していくための試みとして過去や今後の利活用（デジタル化による公開含む）の予定
- 4) 川浦山の過去や現況が把握できる地図情報の補足

上記の指摘について、烏川流域森林組合長 市川 平治氏、高崎市 文化財保護課長（学芸員）角田 真也氏の協力を得て資料を作成し、2021年1月18日に提出しました。指摘事項についての回答内容については、最終報告に記載する予定です。

(3) 林業遺産への登録事項について

次の内容で、林業遺産に登録されることを、待ち望んでいます。

林業遺産名：川浦山御用木御伐出絵図

認定対象：川浦山御用木御伐出絵図

分類・形式：資料群

成立年代：1834年（天保5年）

認定理由：巨木の伐採から河川を利用した木材運搬までが描かれており、近世幕藩体制における林業の様子を伝えている。

5. まとめ

今回の調査で、「川浦山御用木御伐出絵図」は、江戸時代に描かれた絵図が保存されている価値に加え、今回、当時のケヤキの伐採方法、伐採したケヤキを搬出した溪流等を調査し、史実の再発見に努めました。

その結果、古文書に記録されている沢を、地図上で把握することにより、ケヤキの搬出経路を図示できました。また、焼伐法に関する資料を調査することにより、当時から、木を加熱することで木の強度を低下させ、伐採時に木が裂けることを防いでいた史実を確認できました。

江戸時代のこれらの史実を、ちらし等で紹介することで、倉渚地域を訪れる人が、歴史を感じることができると思われます。また、ケヤキを倉渚地域の象徴とし、ケヤキの管理に努めることにより、ケヤキの付加価値を高める機運の向上に繋がると思われました。

本年度は、「川浦山御用木御伐出絵図」の価値の再発見を中心に調査しましたが、次年度は、林業遺産に登録された他の地域を調査して、その活用方法等を検討する予定です。

引用文献

- (1) 官材画譜 土屋秀世 国立国会図書館デジタルコレクション（年代不明）
- (2) 倉渚村林業史 市川八十夫 倉渚村資料(1971年)
- (3) 川浦山御用材秘史 本多夏彦 群馬県の治山史 群馬県治山治水協会（1970年）
- (4) 新編倉渚村誌 第3部 近世 第3章 産業と交通 高崎市（平成21年刊行）
- (5) 川浦山御材木御伐出御用中日記 星野七郎右衛門（年代不明）